

新聞販売業の交通労働災害を防止しよう!

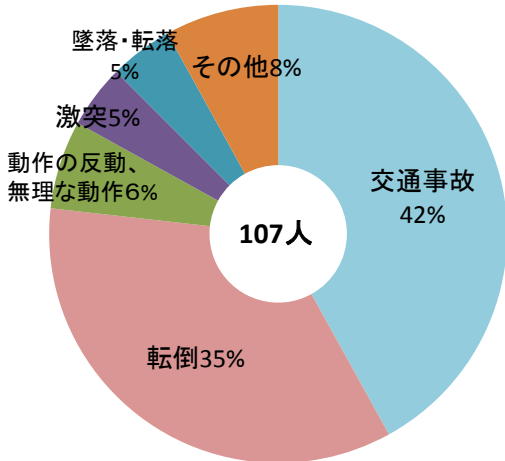
「新聞配達中の交通労働災害防止対策を進めよう」

平成27年に大阪府内の新聞販売業の休業4日以上労働災害による死傷者数は、**107人**で、前年より**27人減少**し、死亡災害は、発生していませんが、なお多くの労働者が被災しています。

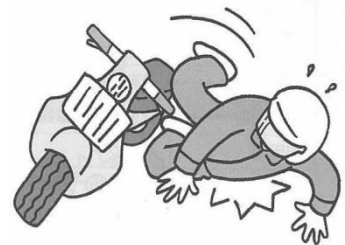
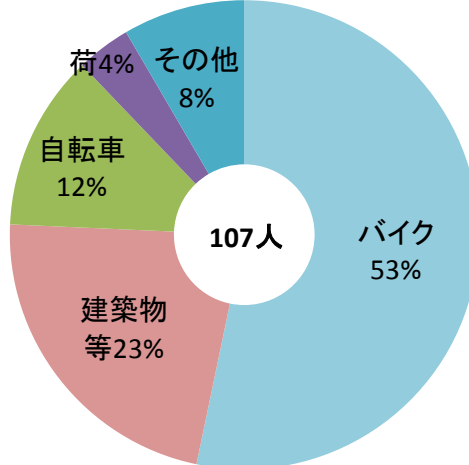
災害の内訳では、「交通事故」が最も多く**47人**(前年比**15人減**)です。また、事故の起因物では、新聞配達中などのバイクによるものが**57人**と最も多く、自転車も13人と、二輪車で災害が全体の6割以上を占めています。

交通事故、特に二輪車の事故を防止するため、対策を考え、実行しましょう(裏面参照)。

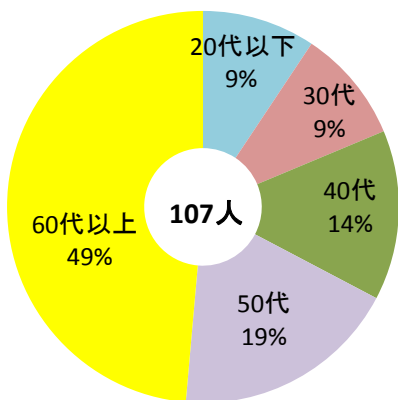
事故の型別災害発生状況



起因物別災害発生状況



年齢別災害発生状況



年齢別では、60代以上の労働者の死傷者数が他の年代と比較して極めて多くなっています。

60代以上の労働者は、個人差はありますが、一般的に視力、筋力などの身体機能の低下が要因となって災害が発生する場合があります。その災害防止対策として、

- ・過度の負担にならないような作業計画にする。
- ・疲労を回復するため休憩、休息を十分に確保する。
- ・作業の合間に体をほぐすため適時、体操などを行う。

などが上げられます。参考にして対策を講じてください。



新聞販売業の交通事故事例(平成27年)

番号	発生日	性別	年齢	職種	経験	起因物	傷病の程度 休業日数	発生状況
1	2月	男	30代	配達員	10年	自転車	足骨折 3月	配達のため自転車で道路を走行中、歩道から出てきた歩行者を避けようとしたところ、バランスを崩し転倒した。
2	7月	女	50代	配達員	1年	バイク	足骨折 3月	配達のためバイクで道路を走行中、Uターンしたところ、バランスを崩し転倒した。
3	8月	男	60代	配達員	4年	バイク	頭部損傷 1月	道路をバイクで走行中、交差点で本線に合流した際、本線を走行してきた車両と接触した。
4	11月	女	50代	配達員	12年	バイク	腕、肘損傷 1月	配達のためバイクで道路を走行中、路面が雨で濡れていたためスリップしバランスを崩して、転倒した。
5	12月	男	60代	配達員	2年	バイク	骨盤骨折 3月	配達のためバイクで道路を走行中、交差点を右折しようとしたところ、対向車線を直進してきた乗用車と、接触した。

交通事故防止のポイント

(1) 交通労働災害防止のための管理体制の確立

- ① 交通労働災害防止に関係する管理者を選任し、その管理者の役割、責任及び権限を定め、また、管理者に対して必要な教育をする。
- ② 安全衛生方針及び目標を設定するとともに、労働時間の管理、教育を含む安全衛生計画を作成、実行し、その結果に基づいて評価、改善する。

(2) 適正な労働時間等の管理、走行管理の実行

- ① 過労の防止のため十分な休憩時間に配慮した走行計画を作成し、労働時間及び運転時間などを管理する。
- ② ヘルメット、プロテクター及び蛍光衣服などの保護具を人数分確保し、使用させる。

(3) 睡眠状況、疲労、飲酒及び保護具など乗務前点呼の実施

点呼時に睡眠時間、体調等を確認し、睡眠不足などが認められた場合には、運転を見合わせ他の交通手段を利用させるなど適切な措置を行う。



(4) 運転者などに安全運転のための教育の実施

- ① 交通法規、改善基準告示等の遵守、睡眠時間確保の必要性、飲酒による運転への影響、睡眠時無呼吸症候群(SAS)の治療、体調の維持などに関する事項、作業日報の記録などから判明した安全走行に必要とされる事項、交通安全情報マップ及び関係法令などについて教育する。
- ② 交通危険予知訓練(KYT)
イラストシートなどを用いて潜在的危険性を予知させ、防止対策を立てさせる交通危険予知訓練(KYT)を行う。

(5) 健康診断などの実施

視力やSAS等の項目を入れた定期健康診断を行う、また、長時間労働者には医師による面接、相談を受けさせる。

安全運転のポイント

二輪車の事故防止は、運転者自身の安全運転の心がけも大切で、次を参考に対策を講じてください。

- ① 二輪車は小型のため他の四輪車から死角になりやすいので、車両に認識できる位置で走行し、また、大型車のすぐ横での走行は、極力避ける。
- ② 交差点を直進するときには、左折、右折の車両がある場合は、先に相手を通させた後に走行する。
交差点を左折、右折するときは、減速または一旦停止する。
- ③ 車線変更時は、変更先の車線を走行している車両から十分に確認できる距離を見極めてから行う。
- ④ 二輪車は運転姿勢が前傾のため、四輪車と比べ視野の確保が十分でない場合が多く、また、走行時の視界が路面のみになっていることがあるため、視野を確保して周囲の交通状況に気を配りながら走行する。
- ⑤ わずかのカーブも減速し、また、転倒防止のため、急ブレーキを避けるなど常に余裕を持った運転をする。
- ⑥ 停車する場合は、後続車両及び歩行人などの位置を確認し、後続車両などの障害にならないような場所で行う。
- ⑦ 雨天時は、路面上またはマンホールの蓋などでのスリップによる転倒を防止するため、スピードを落とし、また視野を十分に確保して走行する。雪道も同様な運転をする。
- ⑧ 運転時は、ヘルメットを着用し、あごひもを確実にしめる、腹部、胸部を保護するためプロテクターの着用も衝突、または転倒での衝撃を吸収、軽減するので有効である。
- ⑨ 夕方など薄暮走行時は、早めにヘッドライトを点灯し、自分の車両の存在を他者に知らせる、また視認性の確保のため蛍光ベストなどを着用する。

二輪車の安全教育は、(一財)大阪府交通安全協会が行っている二輪車安全教育講習会を受講することも有効です。詳しくは(一財)大阪府交通安全協会(電話：06-6941-6983)のホームページなどを参照してください。

高齢労働者の安全、健康管理などは、陸上貨物運送事業労働災害防止協会作成の「高齢者に配慮した交通労働災害防止の手引き」等のパンフレットを参考にしてください。(http://www.rikusai.or.jp/public/leaflet/kounennreisya_susumekata.pdf)